

名古屋大学エネルギーマネジメント研究・検討会
平成19年度 エネルギーに関する文理融合研究合同成果報告会
第3回 名大発一省エネ推進と地球温暖化防止

地球温暖化防止のための京都議定書の第一約束期間（2008-2012年）を迎え、日本はその5年間で二酸化炭素など温室効果ガス排出量を1990年比6%削減することが義務付けられています。すでに企業や地方公共団体等では地球温暖化防止に向けた独自の取組を進めており、大学も決してこの例外ではありません。

名古屋大学では他大学に先行し、地球温暖化対策計画を策定し、エネルギー問題研究会およびエネルギーマネジメント研究・検討委員会を立ち上げ、積極的に学内における省エネルギー対策の実施に向けた検討を実施して参りました。大学内の部局間の枠を超えた教員ならびに事務・技術職員を交えた研究会を重ねることで、理系、文系、事務・技術系のアイデアと経験を持ち寄り、実証データに立脚した省エネ対策の指針の策定と実施に努めて参りました。これらの成果により、「平成19年度省エネルギー実施優秀事例グループ経済産業大臣賞」を受賞することができました。

今年で3回目を迎えたこの合同成果報告会では、エネルギーマネジメント研究・検討委員会で進めてきた研究の成果をご覧いただき、ご来場の皆様と議論を深める中で、名大発の地球温暖化対策を広く社会と共有し、そのあり方を共に考え、実践していく契機にしたいと考えております。

開催日：平成20年3月14日（金） 14:00-17:00

場 所：名古屋大学経済学部第一講義室（空気攪拌ファンによる空調効率化プロジェクト実践場所）

【プログラム】

14:00-	報告会開催にあたって	山口 博行（施設管理部 部長）
	研究成果報告：エネルギーマネジメント研究・検討会 「研究・検討会の活動状況について」	長谷川 達也（エコトピア科学研究所 教授）
	平成19年度省エネルギー実施優秀事例グループ経済産業大臣賞受賞 「名古屋大学の省エネ活動事例」 <名大発、地球環境保全への挑戦>	加藤 好孝（施設管理部施設管理課 課長）
	「経済学研究科における省エネ実践事例」	荒山 裕行（経済学研究科 教授）
	「省エネテクニク：クリーンルームの省電力化」	熊沢 正幸（全学技術センター 専門技術職員）
	《 休 憩 》	
	「エネルギー使用料評価と受益者負担制度の検討」	恒川 和久（施設整備推進室 講師）
	「大学におけるエネルギー単位と隠れた環境負荷」	林 希一郎（エコトピア科学研究所 准教授） 渡辺 聡（経済学研究科）
	「環境配慮メッセージが省エネ行動促進に与える影響」	元吉 忠寛（教授教育発達科学研究所 助教）
	「電力消費に関する研究室単位の情報提供の効果」	加藤 丈佳（工学研究科 准教授）
	「LEDパネル照明」	北川 邦行（エコトピア科学研究所 教授）
	「人感連動制御を用いた学生研究室の浪費電力削減」	田中 英紀（中部大学工学部建築学科 講師）
	まとめ	荒山 裕行（経済学研究科 教授）
	閉会の辞	北川 邦行（エコトピア科学研究所 教授）
17:30-	《 情報交換会 》	

主催：名古屋大学エネルギーマネジメント研究・検討会

お申込み先：名古屋大学施設管理部施設企画課総務掛 佐藤 sis-sou@post.jimu.nagoya-u.ac.jp